

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	児童発達支援放課後等デイサービス リーチ		
○保護者評価実施期間	2025年 1月 25日 ～ 2025年 3月 10日		
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	60人	(回答者数) 42人
○従業者評価実施期間	2025年 1月 25日 ～ 2025年 3月 10日		
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	9人	(回答者数) 9人
○事業者向け自己評価表作成日	2025年 3月 13日		

○ 分析結果

	事業所の強み（※）だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	満足度が高く日頃から保護者さんとコミュニケーションが取れ 利用者の様子やニーズについて連携がとれる関係を築けている 事が予測される。	面談を設けゆっくり話せる時間を取っている。職員を固定化せ ずに2名以上で対応し連携や複数の意見を取り入れながら方針 を定めることができる。	保護者会や意見交換会などの実施で更なる情報提供やニーズ を把握する場を設けることを検討。事業所のカラーや取り組 みについて知ってもらう機会を作る
2	利用者が通所を楽しみにし、学校や生活の励みになっていると 記載されていた	メインの活動は学習であり、放課後時間をさらに学習時間とし て過ごすことに抵抗感がある児童が多いはずだが学習後の余暇 時間、スタッフとの関りを持ちながら過ごせる時間のバランス が児童にとって励みとなり通所を楽しみにしている様子が記さ れていた。	サービスの質を5領域に沿った専門性の高い内容へ取り組 む。専門職員からの専門スキル向上の研修の実施
3	学習の習慣化を目指すための取り組みとしてトークン制度の効 果が表れている	トークン制度の内容 週一回のご利用を5回行えばスタンプがたまりご褒美がある。 スタンプで児童の視覚にアプローチし、回数を重ねる楽しみと なっている。	支援教室や通級指導内容に沿った学習方法の般化で学習への 意欲向上を図る

	事業所の弱み（※）だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	満足度平均は高いが「やや満足」層へのアプローチが必要であ る。	事業所への安心感、信頼感を獲得するための工夫、改善を検討 する	児童の情報共有について事業所での様子だけでなくその他の 生活の場での様子について共有できる体制の実施。職員の保 護者連携のスキル獲得と専門性の向上で安心と信頼の獲得を 図る
2	インクルージョン推進項目で獲得点が低いこと	行事や地域交流イベントを企画し、周知を行う。	地域イベントへの参加企画や、地域施設の利用などを設けて 参加者を募る。インクルージョン推進の目的を周知する。
3	災害、避難訓練の実施項目について獲得点が低いこと	避難訓練、有事に必要なシミュレーションを実施している。保 護者や利用者へ実施日、実施結果等が共有されていない。	避難訓練、実際に起きたときのシミュレーション内容、実施 日、実施目的や結果を随時に保護者に周知を行う。利用者へ は発達に応じた方法で持ししい目的を伝えたくて訓練を持続 する。